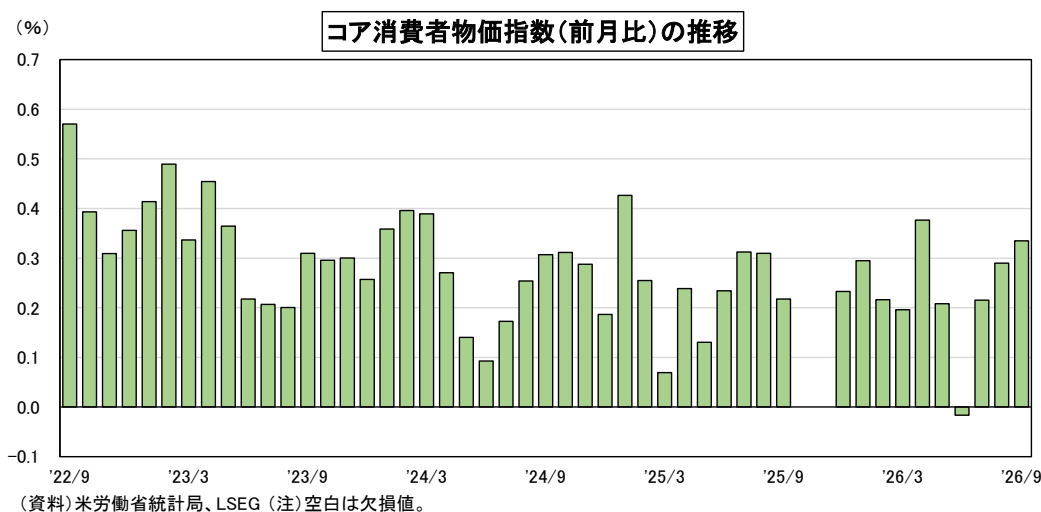


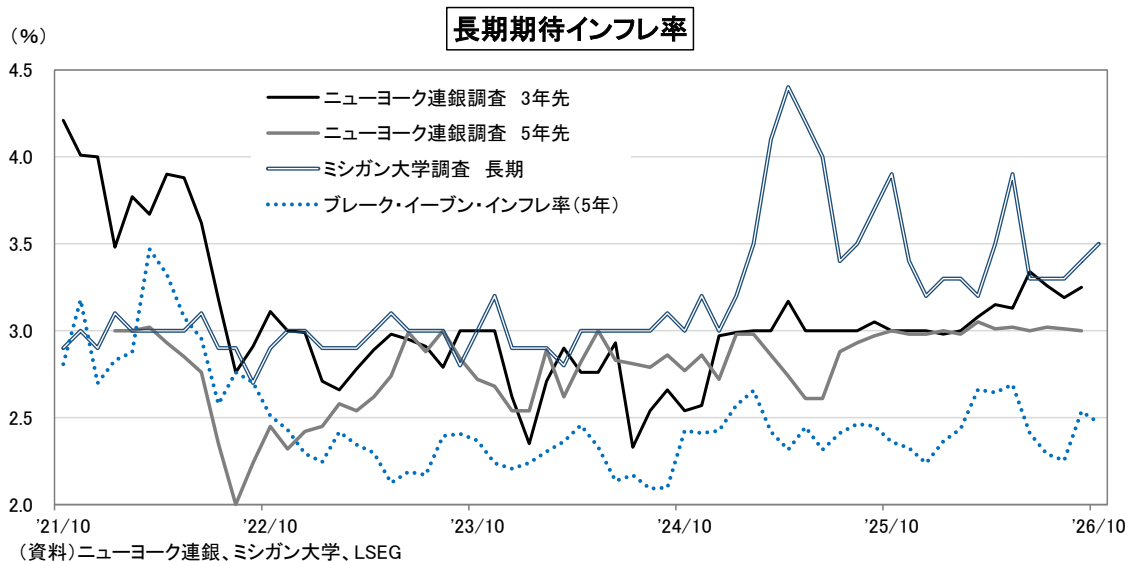
(米国)利上げ継続を支持する内容となった9月消費者物価指数

14日に公表された9月の消費者物価指数(CPI)は、エネルギーが前月比5.2%と上昇幅が拡大したこともあり、総合は同0.6%(前年比3.7%)と加速した。また、エネルギーと食料品を除くコアは同0.3%(同2.6%)と、前年比では8月の同2.4%から加速した。

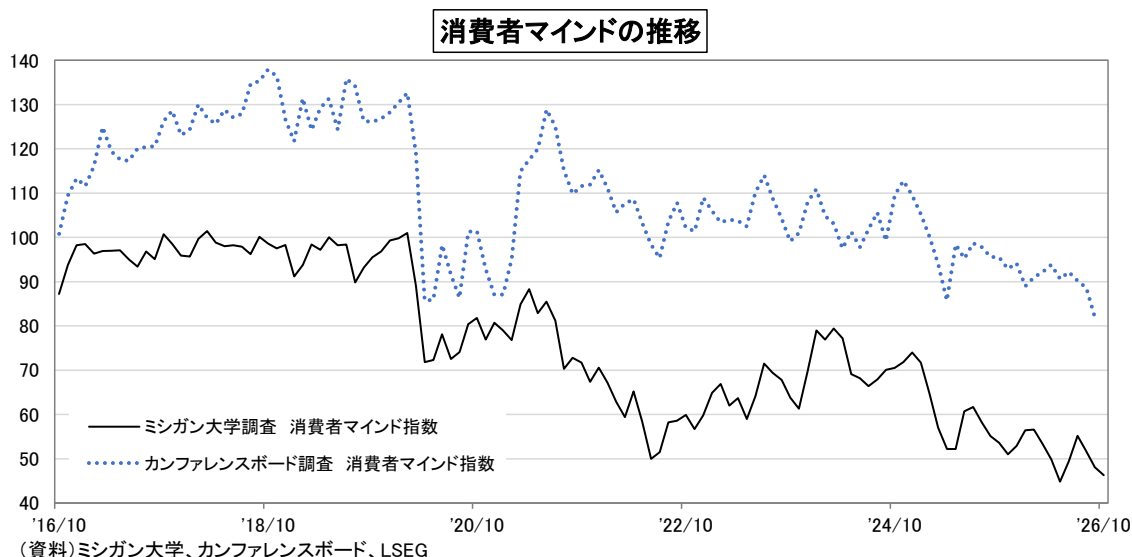
コアの内訳では、食品およびエネルギー商品を除くコモディティは前年比0.7%と低い伸びとなっている一方で、エネルギーサービスを除くサービスは同3.1%と高い伸びとなった。



続いて、期待インフレ率を確認しよう。10月のミシガン大学消費者マインド調査(速報)での期待インフレ率をみると、1年先は前月から0.1ポイント上昇の4.7%、長期は同0.1ポイント上昇の3.5%となった。また、9月のニューヨーク連銀調査では、1年先期待インフレ率は0.3ポイント上昇の3.9%、3年先は同0.1ポイント上昇の3.3%、5年先は変わらずの3.0%となった。最近のデータからは、期待インフレ率が小幅に上昇したとみられる。



10月のミシガン大学調査の消費者マインドは、前月比▲1.8ポイントと3か月連続での低下となった。ミシガン大学からは、民主党支持者と共和党支持者の消費者マインドの動きに違いはなかったこと、低所得者と株式ポートフォリオが小さい消費者の景況感悪化が大きかったこと、生活費の高騰について不満が高まっていることなどが報告された。



さて、今回発表された指標の金融政策への影響を考えたい。CPIが8月から加速し、期待インフレ率も上昇がみられることから、9月FOMCにて利上げ路線に転換したFRBとしては、利上げ継続を支持する内容となったと思われる。

もっとも、最近のFOMC参加者の発言からは、速いペースでの利上げを否定する見方が意識されていることもあり、10月FOMCでの利上げ織り込みはあまり進んでいない。

